

なぜ大学は、ずっとオンラインなのかな～

新型コロナウイルスによる学生生活への影響について、各地の大学が行ったアンケート調査で、中等症のレベル以上のうつ症状がおよそ1割の学生に見られたり、心の調子が悪くならないか不安と答えた学生が過半数となったりするなど、心への影響が浮き彫りになっているそうです。九州大学では、今年6月に大学生と大学院生を対象に調査を行い、約3割の6000人から回答を得ました。「孤独感や孤立感を感じる」と答えた学生と、「気分が落ち込んでいる」と答えた学生が、それぞれ、およそ4割に上ったということです。驚きの数字です！この事実をもっと深刻に捉えるべきではと思います。

企業では、感染予防措置に努めながら事業を続け、8月下旬からは小中高の2学期が始まりました。GO TO トラベルで観光地も少し賑わいを取り戻し、9月の連休は、街中でも人出が戻ってきていました。そんな中、大学生だけがエアポケットのように社会の再始動から抜け落ちているようです。確かにオンラインで勉強はできるし、勉強は自分でするものでしょう。

しかし、先日 ZOOM による終日研修をしてみて感じたことがあります。一方方向にならないよう、グループ討議を多く取り入れ、チャット等も利用しましたが、終了後ひどい疲労感に襲われました。やっている方がそうだから、受講する側は、もっと大変だろうと思いました。自分が受講する側のときは、数時間なので集中できますが、大学生は、春から毎日毎日この状況が続いているのです。気の毒だと思いました。

大学で得るものは学問だけではありません。秋から一部通学による講義を始めたところもあるようですが、弊害の重要性に気づきながら「横並びでオンライン授業を続けている」という状態が気にかかります。先に登校を開始してクラスターでも発生すると叩かれるかもしれないと恐れて、動こうとしないように見えます。それらしい理由は、報道していますが、義務教育期間が画一的になるのはやむを得ないとして、工夫の余地はあるはずですが、もっと各大学独自の動きがあってもいいはずですが。

同調圧力という言葉をよく耳にするようになりました。「思っていることを言えない」「人と違った行動をとれない」社会は窮屈です。違った意見や新しい発想は、成長に必須なのに・・・

2020.10月 水田かほる